

# 「つまずきと立ち上がる道」

マタイ18：1～10、使徒6：8～12、7：47～60

## ■ 広いところへ

神様はあなたを広いところへ連れ出されると言われました。神様が、神様の前にあなたを連れ出すとはどういうことでしょうか。それは、鳥が羽であなたを覆うように神様があなたを包み、そのあとあなたをそこから移すように、あなたが今置かれている所でない所へ連れ出してくださることです。ですから私たちはそれを信じて、神様が連れ出そうとしてくださる所へ出ていきたいと思うのです。

## ■ マタイ18：1-10

私たちは、問題が起こった時、それをどう扱っているでしょうか。「つまずき」という言葉をどう感じますか。マタイは、「つまずき」を与えるものは何であるかという時、それは自分の目であり手であるという方向に話が進みます。

あなたは何につまずきましたか。その問題は何だったのでしょうか。私たちは、大きな出来事なら、真剣に考え、祈るのですが、人生のほとんどは、「小さなこと」がきっかけでつまずくのです。それは、私たちが目の前の出来事だけを見て生きているからなのです。だから、ちょっとした出来事で、信じていたものが崩れるのです。神様は、私たちと向き合うことを求めておられます。しかし、私たちはそれをしなくなり、形だけで判断しようとするので、相手の心がわからなくなり、その人のちょっとした言動でつまずくのです。

「もしあなたが、つまずきを目から受けるなら、目を取ってしまえ。手によって受けるなら、手を投げ捨ててしまえ。」と神様は言われています。当然、つまずきをもたらすのはよくないことですが、つまずかせるものに対して聖書には、「石臼を首にまきつけて、海に投げ込んだ方がましだ」と書いてあります。それほど「つまずき」は問題なのですが、避けられない、と記されています。「つまずかせること」と「つまずきを受けること」。イエス キリストが、マタイ、マルコ、ルカの三つの福音書で、わざわざこのシーンを残させたのはなぜでしょう。

## ■ 使徒6：8-12 7：47-60 ステパノの説教

ステパノは、キレネとアレクサンドリア出身のユダヤ人、キリキヤ州、アジア州出身のユダヤ人たちと議論をしました。ステパノは、彼らに、みことばによって真実に正しいことを伝えました。ところがステパノに本当のことを言われたから腹が立ち、自分が突き通したいことのために嘘までついたのです。彼らは、本当のことを言われたので、つまずいたのです。

この世の忌まわしいつまずきは、自分に対して言われたことが自分を傷つける内容であり、それは普段から直さないといけないと悩んでいることだったらどうでしょう。つまずきを与えるものは、私たちの耳、目、この体であり、今までの生き方でそこにしこりができているのです。

私たちは、どうでもいい小さなことで勝手につまずいて、転んでいるのです。そして、相手とちゃんと話し合わず、聞いてほしい、感じてほしい、わかってほしいと、小さなことを大問題のように誰かに話してしまうのです。

## ■ ①つまずきをもたらすものから自由になる

「つまずき」は、石臼をつけて海に沈めろ、と言われるくらい大きな呪いです。でも私たちは、たとえつまずいても倒れはしないのです。それは、神様はあなたのために命をかけてあなたの人生を全部あがない取って、あなたを広いところへ連れ出して、わたしはあなたをみているよ、とされているからなのです。だからこそ、私たちは、立ち上がる道を選ばなければなりません。神様は、問題が起きても立ち上られるようにしてくださっているのですから、私たちは、備えなくてはなりません。神様は、恐れるから備えるのではなく、役割を果たすために備えさせるお方です。神様に祈って、あなたは何のために備えべきなのか考えてください。

## ■ つまずきと立ち上がる道

私たちにつまずきをもたらすものは、相手を見る目、相手の声を聴く耳、相手の態度など、絶えず私たちがつまずくのは「人」です。それをあなたが、神の目、神の耳に変えればつまずきから自由になるのです。

## ■ ②神を選ぶ道

ステパノは天使のようだった、と書かれています。神様は、あなたが神様を選ぶときに平安を与えられます。そうすると、あなたは天使のように見えるのです。ステパノがそうであったように、自分が汚いと分かった人は、そんな自分でも神様を選んでくれたことがわかるのです。そうすると、いざという時に神様を選べるのです。ですから、ぜひ、どれだけ自分が汚いかよく思い返してください。

## ■ ③ステパノの道へいかに ～からし種のように神に育てられる～

ステパノはなぜ彼らを赦すまでに愛することができたのでしょうか。ステパノは、こんな自分が赦されて愛されたことを知っていたからです。それは、からし種ほどの信仰です。あのユダヤ人たちは、神を知っていましたが、神が自分を愛していることを知らなかったのです。

神様があなたをどれほど愛しているか、それをあなたが知れば、私たちはつまずくことはないのです。でも、神様の愛から離れていると、その恵みがわからないと、愛することはできません。

エリートのエドウィン スタントンは、田舎者のアブラハム・リンカーンを批判していました。しかし、大統領になったリンカーンは、スタントンを自分の右腕となる国防長官に任命しました。その決定を改めるよう促した参謀らにリンカーンは、「心の中の敵を消さなければなりません。しかしそれは、敵を愛で溶かして友に変えなさい、という意味です。」と言いました。

神様は、長い年月をかけて、その人を向き合うようにして、根本的に癒して戻していかれます。神様がアブラハムを選んだ理由は、それでも神様について行こうとするその人の心、こんな私でも神様を選んでくれるならというその人の気持ちがあったからです。私の人生を造り変えたいと願うなら、幼子のようにでなければなりません。神様は、なぜ、私を選んでくれたのか理解することが出来たら、私たちはこのプロセスを生きることができるのです。時間はかかりますが、あなたが神様を選ぶことができれば、あなたの人生は変えられていきます。

## ■ とらわれた二人

誤った目撃証人のために、一人の人が無実の囚人となり服役することになってしまいました。彼は、その目撃証人を非常に憎みました。でも彼は刑務所の中でクリスチャンに出会いました。そして彼もクリスチャンになり変えられました。その彼が作った歌があります。

僕の未来 僕の将来は 自分にはわからない  
彼に急に涙があふれてとまらない  
神様が訪れてくれるまで いつも一人だった  
神様なしでは 生きられない  
神様のように僕を愛してくれる人は 他にはない  
僕は人生が変えられた

私たちの勘違いは人をつまずかせます。しかし、つまずきの中で、私たちが立ち上がることを決意すると、そのつまずきが再び人々を和解させ、人生を造り変えることができるのです。

(要約者:秋山 恭子)

(2018年9月9日)